

西日本豪雨災害で被災した愛媛県柑橘産地の

復旧・復興状況

諦めない強さは、
いつだってみかんが
教えてくれる。



宇和島市吉田町白浦

資料提供：JA愛媛中央会

応急対策等

再度災害防止及び未被災園地の営農継続のための応急対策やモノレール等の復旧を優先して実施した

畑地かんがい施設

- 被災を免れたスプリンクラー施設の稼働を優先 → 仮設配管による応急復旧等を実施
【南予用水スプリンクラー施設 約2千haが稼働困難（発災直後）⇒93%が稼働可能（8/31現在）】
- 被災したスプリンクラー施設 → 農地と合わせて復旧（宇和島市吉田町、西予市明浜町は県が受託）



農地



土のうによる園地復旧

モノレール

- 【モノレールの復旧率 93%（8/31現在）】
- 農地の復旧を待たなければ対応できない箇所を除き、今年の収穫までに復旧完了予定

講習を受けモノレールを自力復旧する若手農家



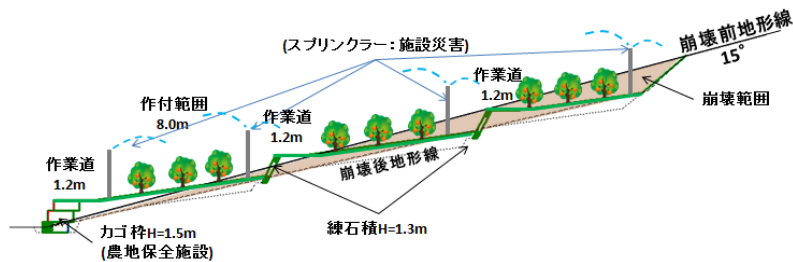
損壊

復旧完了

樹園地の復旧・復興方針

① 原形復旧

- 被災した部分を、出来る限り被災前に近い形状で復旧（災害復旧事業を活用）



② 改良復旧

- 被災した急傾斜園地を緩傾斜園地へ改良して復旧
- 必要に応じて隣接する未被災園地を合わせて整備（災害復旧事業、災害関連事業を活用）

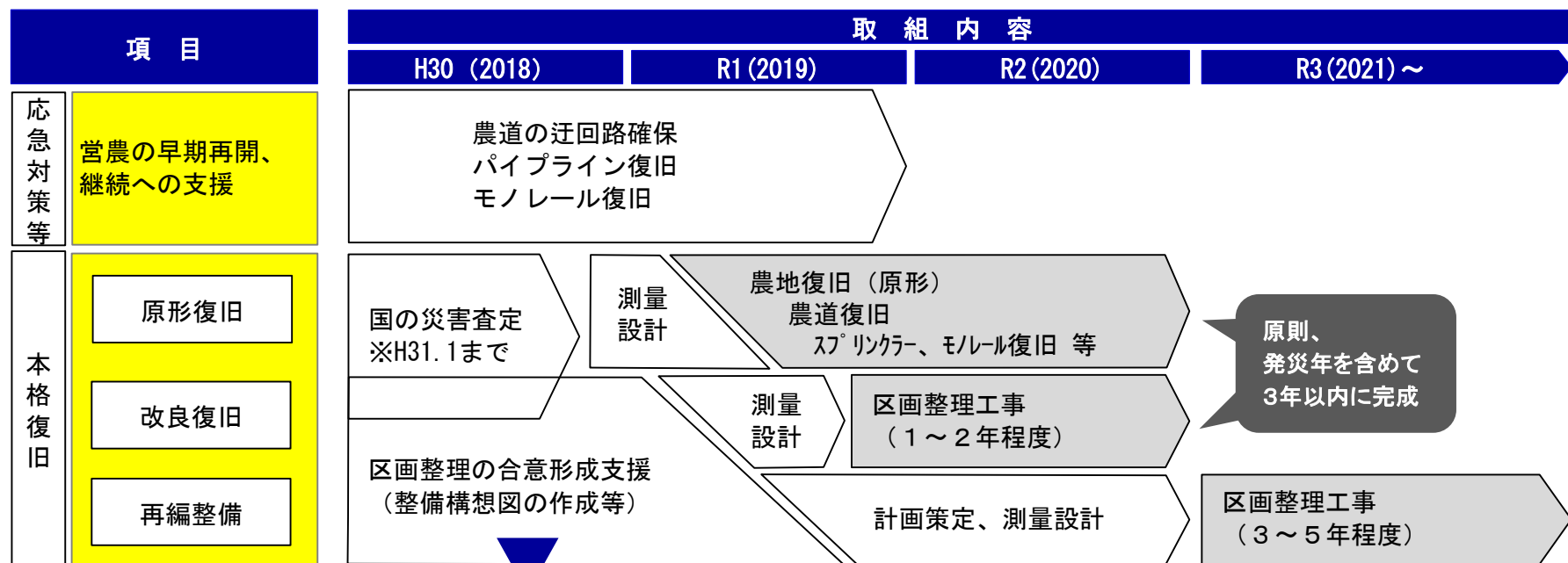


③ 再編整備

- 周辺の未被災園地を合わせて広範囲で区画整理を実施
 - 園地の緩傾斜化や道路、水路の整備を総合的に行う（国庫補助事業を活用。地域の実情に適した事業を選択）
- ⇒ 災害に強く生産性の高い園地として再生



復旧・復興に向けて



被災農家を支えながら、産地力も底上げ！

被害が甚大であった南予地区では、関係ＪＡ・市町、地方局等で「南予地域柑橘農業復興対策チーム」を設置、同チームに実務担当者で組織する「営農支援班」を設置し、再編整備や未収益期間対策等の推進を強化

労働力の確保

- ・ ボランティアの受け入れ人数 約4,100人（8月末現在）
- ・ みかん運搬等アルバイト支援 766人役（平成30年度国事業の活用分）
- ・ アルバイト、ボランティアの宿泊施設確保

作業受託体制づくりの構築

- ・ 受託組織の立ち上げ、拡大

生産量の回復、収入減少対策

- ・ 代替園地の掘り起こしと希望農家への斡旋
- ・ モノレール自力施工箇所の点検（29箇所）
- ・ 早期成園化が可能な大苗育苗の実証

新技術・新品種の導入

- ・ マルドリ栽培導入や温州みかんの根域制限栽培実証
- ・ 再編整備園地で紅プリンセス等高収益品目の導入を検討
- ・ ドローン防除農薬適用拡大試験、実演セミナーの開催



アルバイトによる運搬



復興に取り組む玉津柑橘倶楽部のメンバー
（同倶楽部ＨＰより）